福江地区まちづくリビジョン

和是美

いだまり

ままえか

の末たまち



福江地区まちづくり会議

はじめに	
福江地区の現状と課題	
まちの自慢 4	
■まちの魅力資源図	
まちづくりの目標	
取組みの方向	
まちづくりの目標1 安全で快適なまちづくり	
まちづくりの目標2 誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり 16	
まちづくりの目標3 『水辺』を軸にした多様なにぎわいづくり 21	
■まちづくりビジョン図	
まちづくりの展開にむけて	
福江地区まちづくり会議 構成員	
福江地区まちづくり会議 の開催経緯	

はじめに

福江地区の活性化にむけ、住民と行政が共有できるまちづくりビジョンの策定をめざす「福江地区まちづくり会議」が2007(平成19)年6月に発足しました。この会議は委員26名(一般公募、地元推薦の自治会長)と顧問5名(校区総代、地元在住市議会議員)及び行政の関係部署により発足し、2年を目途にビジョンをとりまとめることとし、活動を行ってきました。

初年度は、会議メンバーがまちづくりについて学ぶことを大きな狙いとし、3 つの部会 (「くらし・ハード部会」「くらし・ソフト部会」「にぎわい部会」) に分かれて、ワークショップ形式で意見交換を行うとともに、まちづくり講演会や先進事例視察の開催、福江小・清田小の子どもたちによるまちのお宝発見ワークショップに取組み、これらの中で出された意見を網羅的に「中間とりまとめ」として整理しました。

2年目は新たなメンバーを加え、「中間とりまとめ」をもとにテーマごとに検討を重ねました。さらに、とりまとめた素案をまちづくりニュースに掲載し、住民の方々からも意見を求め、それらを踏まえた上で「まちづくりビジョン」としてとりまとめました。

このまちづくりビジョンには様々な夢がこめられており、実現には多くの課題を抱えているものもあります。しかし、ビジョンを夢で終わらせていては意味がありません。様々な主体がそれぞれの立場でビジョンの実現にむけて取組むとともに、連携・協働していくことで課題を乗り越えていくことが重要だと考えます。このビジョンが福江地区の未来を切り拓く礎となることを期待します。

注:「福江地区」とは、旧渥美町の中心であった福江、保美、高木、折立、古田にまたがる地域をさしており、まちづくりビジョンの対象としては、下図の市街化区域を中心とする区域としています。



福江地区の現状と課題

福江地区は、江戸時代には大垣新田藩の陣屋とともに集落地が形成されており、伊勢・尾張・三河などの各地と結ぶ海上交通の拠点として栄えました。明治 20 年代以降は、汽

船の発着によって、さらに活況を呈するようになり、商業地は下地通りから西部の原ノ島、天神方面に広がっていきました。渥美半島西部唯一の商店街として、最盛期には映画館などもあり、大いににぎわいました。戦前には、田原から福江までを結ぶ鉄道計画があり、用地買収が行われ、昭和14年には路盤が完成していました。(戦争の開始・激化とともに資材不足となり、工事は進展せず)



賑わっていた頃の下地の商店街(昭和30年代)

しかし、人や物資の輸送が陸上交通に代わると、物流の玄関口であった福江港も戦前の 面影をなくし、それと同時に商店街もその影響を受け次第に人通りが少なくなりました。 さらに、幹線道路が整備され、モータリゼーションの進展の中で駐車場を有するショッピ ングセンターが幹線道路沿いにでき、旧商店街から商業施設が移転し、空き家や空き地が 増加し、旧商店街からはかつてのにぎわいがなくなってきています。

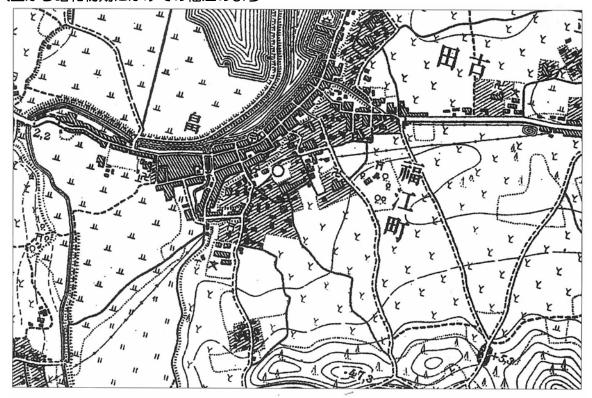
地区内の人口は若年層の転出により減少傾向にあり、高齢化が進展しています。世帯数の2割弱を高齢者世帯が占めており、特に1人ぐらしの高齢者が増加しています。

市街地の状況をみると、幅員の狭い道路が多く、歩道が設置された道路はわずかしかなく、防災や交通安全上の問題が指摘されています。また、社寺や斜面地などに緑は比較的多くみられますが、都市公園がなく、住民の憩いの場、交流の場が不足している状況にあります。

旧渥美町の中心として、様々な公共施設が集積している福江地区ですが、合併によりその機能が変わってきています。平成 19 年に策定された第 1 次田原市総合計画では、福江市街地は田原中心市街地、赤羽根市街地とともに市街地拠点の一つとして、位置づけられ、その中で「サブ拠点として農業や自然と調和した快適な居住環境の形成を図ります」とされています。福江地区のまちを活性化させることが、田原市全体の真の一体化につながるという重要な意味を持っていると考えられます。

福江地区の活性化にむけ、知恵を出しあい、住民と行政が協働で次の世代につながるま ちづくりを進めていく必要があります。

大正から昭和初期にかけての福江のまち



1-1 1:25,000地形図「福江」部分 大正7(1918)年測図 大日本帝国陸地測量部

福江地区は、かつて港町(畠湊・古田湊)として栄えていました。免々田川河口の福江港付近を中心に家屋等が密集し、旧福江町役場や郵便局がありました。また、この年、田原・豊橋へのバス路線が開通して、その発着点となりました。なお、当時は潮音寺の西側が水田、岡ノ越の北側のほとんどが桑畑でした。



1-3 空中写真「M415 45」部分 昭和22(1947)年 米軍

福江地区を撮影した最も古い空中写真で、米軍が撮影したものです。中央には、福江小学校、北東部には、 清田小学校がみえます。昭和15年の地形図と比べるとそれほどの変化はありませんが、当時の道路や川の様子 などがわかります。また、建設予定だった鉄道用地がはっきりと写っています。

出典:特別展「渥美半島一地図と空中写真が語る 20 世紀一」渥美町郷土資料館 平成 13 年 10 月

まちの自慢

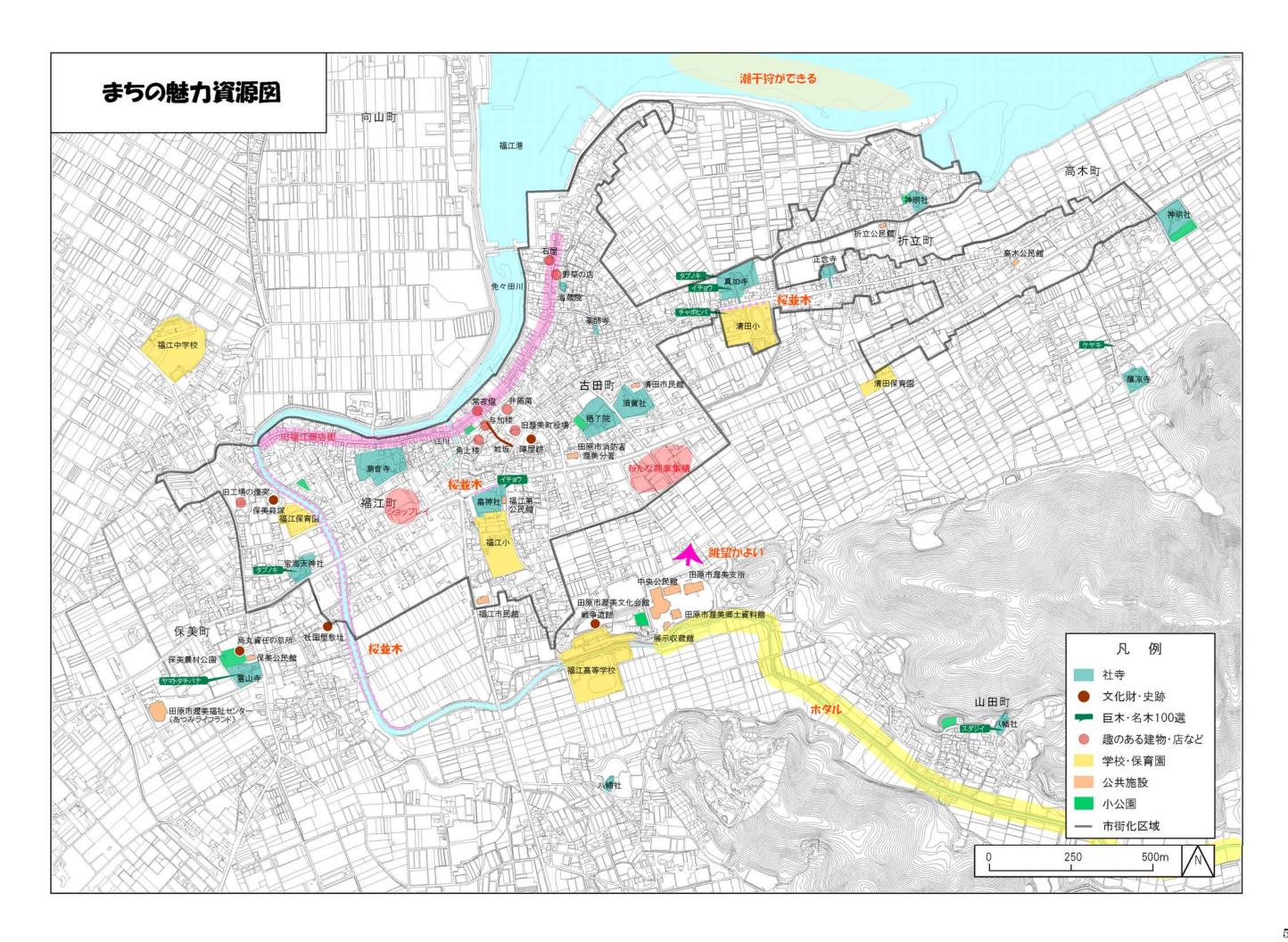
福江のまちの現状をみた時、「活気がない」「人通りが少ない」「暗い」「若い世代の働き場がない」といった意見が出されます。これらの課題に対してどう対応していくかということも重要ですが、なかなか元気がでてきません。福江のまちはこんなにどうしようもないまちなのでしょうか・・・。

いや、我が愛すべき福江のまちには自慢できるところがいっぱいある。自慢大会をすることによって元気を得よう、そして、そのまちの自慢を活かしてまちをもっと良くすることを考えよう、夢を語れなくなったらまちはおしまいだと話し合いました。そうした意見交換の中で、福江の自然から歴史、そこに住む人、そしてこれらを総合した住みよさとして下記のようなまちの自慢が浮かび上がってきました。



「みんなで作ったまちの魅力マップ」は、 清田小学校、福江小学校の6年生によって発見された、 当地区の「まちのお宝」です。

	ま ち の 自 慢
A	● 魚・貝が美味しい、魚介類のうまい店がある● 野菜がうまい、安い(ダイコン、キャベツ…)
食	● 野采がりまい、安い(ダイコン、キャペラ…) ● ユニークなたこやき
	● 目の前に海があり釣りができる、釣り船係留
海・港・川	● 干潟(弁財ヶ浜):あさり・のりが採れる、潮干狩ができる
	● 街の中に川が流れている ● 免々田川沿いの桜、ホタルの乱舞
	● 三河湾を一望できる(支所からの眺めがよい)
風景	● 海岸からの眺望、夕日がきれいな海岸線
	● 農村風景 ● 風車の見える風景
	● 社寺(潮音寺、畠神社)
	● 陣屋跡、城坂、常夜灯
歴史・伝統	● 保美貝塚
	● 旧福江商店街の町並み ● ノスタルジーを感じる建物(与加楼、角上楼、井筒萬)
	● 山車のでるまつり
	● 職人といわれる石材店がある
	◆ 人がやさしい
ひと・活動	● 盆踊り ● 子ども会の花壇がきれいに作ってある
	● 引とも会の化塩がらればいに作ってある● 気候が良好
住み良さ	● 外から引越ししてきても受け入れてくれる
圧の反こ	● 田舎の都会
	● 歩いて飲みにいける



まちづくりの目標

やらまいかり

ひだまり

豊かな自然に恵まれ、 環境にやさしく 自然に人が集まるような **ひだまり**のあるまち

ままえみ

やさしさと もてなしの心があふれ、 常に**ほほえみ**が たえないまち

の末なまち

魚や貝、野菜など 食の魅力に加え、 いろんな魅力にあふれた **味なまち**

「やらまいか」とは、こんなまちをみんなで創っていこうという呼びかけであるとともに、 福江地区住民のまちづくりへの意気込みを示しています。福江地区のまちの自慢を活かし、 みんなの心を 1 つにしてまちづくりに取組んでいくことが重要です。

そのための具体的なまちづくりの目標として、以下の3つを設定しました。

まちづくりの目標 1

安全で快適なまちづくり

安全で快適に生活でき、いつまでも住みたいと思うまちとします。そのため、安全なまちとするために必要な都市基盤を整備し、防災機能を強化するとともに、まちの特性である自然や歴史を活かした、快適に生活できる住環境を整えていきます。

まちづくりの目標 2

誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり

住みよいまちとしてのよさを活かし、誰もがいきいきと暮らせるまちとします。そのため、このまちに住みたいと思う人が住むことのできる条件を整えるとともに、人とのふれあい、支えあいを大切にし、住民のもつパワーをまちづくりに活かしていきます。

まちづくりの目標 3

『水辺』を軸にした多様なにぎわいづくり

おもてなしのできるまちとすることで人を呼び込み、まちのにぎわいを生み出します。 そのため、まちの特性である水辺や食を活かし、多くの人にまちを歩き、楽しんでもら えるような多様なにぎわいづくりをします。地域住民が外の人をもてなすことで、地域 に対する愛着を深め、まちづくりに重要な人づくりにつなげます。

取組みの方向

「まちづくり」は一朝一夕に実現できるものではありません。長期的な展望を持ちながら、可能なところから進めていく必要があります。ここでは3つのまちづくりの目標に沿って、長期的な展望を含めた取組みの方向を整理しました。

取組みの方向(一覧)

まちづくりの目標	キーワード	取組みの方向
	都市基盤	1-1 まちの骨格となる道路の整備
安全で快適な		1-2 地区内に不足している公園の整備
まちづくり	安心・安全	1-3 防災機能の強化
		1-4 安全で明るいみちづくり
	快適	1-5 水辺を活かした憩いの場づくり
		1-6 歴史を感じさせる空間づくり
		1-7 住民の散策や健康づくりに利用できる散策路の整備
	居住・定住	2-1 定住者の増加
誰もが健康で		2-2 高齢者の居住支援
いきいきと暮		2-3 若者の居場所づくり
らせるまちづ	交流・コミ	2-4 住民の交流を深める場づくり
<り	ュニティ	2-5 美化、清掃活動の展開
	人材	2-6 地域の人材活用
		2-7 ボランティアネットワークの形成
	観光・商業	3-1 地域商業の活性化とにぎわい拠点づくり
『水辺』を軸に		3-2 もてなしの空間としてのイメージづくり
した多様なに		3-3 食のまちとしてのPR
ぎわいづくり		3-4 水辺や歴史を活かした観光・レジャーの空間づくり
	イベント・	3-5 イベントによるにぎわいづくり
	情報発信	3-6 まちの魅力の情報発信

【次ページ以降の推進主体・実施時期の見方】

推進主体 行政:田原市、愛知県、国

民間:民間事業者・団体、NPO 等

住民:住民団体を含む

実施時期 短期:おおむね5年以内に着手

中期:おおむね5~20年以内に着手

長期:20年以降に着手

*短期、中期の両方に〇がついているものは、短期に取組むべき必要があるが、財

政面等から着手が中期になってしまう可能性もあることを意味する。

まちづくりの目標 1

安全で快適なまちづくり

都市基盤

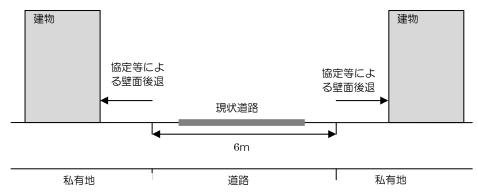
1-1 まちの骨格となる道路の整備

福江のまちには都市計画道路がありません。田原中心部とを結ぶ幹線道路は整備されていますが、まちの骨格となる道路がなく、不便であるとともに災害時の対応にも不充分な状況です。まちの骨格となる道路として、地区内交通の中心となるとともに、災害時の避難路となる幹線道路につながる道路の整備が必要です。

【基本的考え方】

- ①現道をまちの骨格となる道路として位置づけるとともに、必要な部分は新設します。 なお、現道で幅員の狭い道路については拡幅を行います。
- ②旧福江商店街通(水戸橋〜福江港水門付近)については、幅員3m程度のところもあり、拡幅が必要です。拡幅にあたっては、車の通行のための拡幅ではなく、舗装等の工夫により車のスピードを抑え、歩行者に配慮した道路として整備します。

旧福江商店街通(水戸橋~福江港水門付近)の拡幅のイメージ



道路幅員として一定幅(6m)を確保するとともに、地権者の合意のもとで道路からの建物の壁面の位置を後退する(まちづくり協定*など)ことでできるかぎりの空間を確保する。

*まちづくり協定: 地権者等が自主的に定めるまちづくりに関するルール。法律にもとづくルールとして建築協定や地区計画という方法もある。

施策		推進主体			実施時期		
		民間	住民	短期	中期	長期	
福江高校南・東西道路(28図①)の拡幅	0			0			
渥美支所東・南北道路(p28図②)の拡幅	0				0		
古田国道以北・南北道路(p28図③)の新設・拡幅	0				0		
旧福江商店街通(炉橋~福工港門版)(p28図④)の拡幅	0		0		0	0	
保美南北道路(p28図⑤)の新設・拡幅*	0				0		

^{*}現在の道路で対応できることも考えられ、費用対効果の検討が必要。必要性と効果が検証された場合に実施する。

1-2 地区内に不足している公園の整備

福江地区には都市公園がなく、小さな公園がいくつかある程度です。これら小公園の中には地域の人たちが花見に集まったり、住民の交流の場として重要な役割を果たしているところもあります。地域住民の交流の場、憩いの場となる公園を地区内に適切に配置し、住民のニーズを踏まえて整備する必要があります。公園を適切に配置することは、防災面でも重要です。

【基本的考え方】

- ①地域住民が愛着を持って利用できる公園を計画づくりの段階から住民が関わり、作り あげるとともに、良好な維持管理に結びつけていきます。
- ②地域住民が身近に利用する公園として、市街化区域を中心に5ヶ所程度の配置を検討します。これらの公園には、必要に応じて防災機能を持たせた施設を整備するとともに、立地や周辺環境などを考慮し、以下のような特徴を持たせます。
- ③その他、立地条件を活かし、自然とふれあうことのできる園地・広場整備を検討します。

公園	
候補	公園の位置づけ・特徴
I スーパーアツミ跡地	福江地区の中心となる公園
	多くの人が集まるような公園
	陣屋の歴史や伝統ある祭りを感じることのできる公園
	ボール遊びができるなど子どもが遊べる公園
Ⅱ 清田市民館隣接	交流の場となる多目的な広場、臨時駐車場
	(清田校区の拠点公園)
Ⅲ 折立公民館隣接	散策路と連携した健康づくりができる公園
Ⅳ 保美貝塚周辺	歴史を感じることのできる公園
Ⅴ ショップレイ前	にぎわい拠点と連携した地区外からの来訪者の利用を意識した公園
園地・広場	
候 補	整備イメージ
自然園地	免々田川沿いの遊休農地を活用
	ビオトープ*、冒険遊び場、バーベキュー広場など
海浜広場	折立の港の空地を活用
潮干狩広場	海を眺めることのできる憩いの場
	潮干狩りの時に利用できるトイレや休憩施設を設置

^{*}ビオトープ:多様な動植物が生息・生育する空間

施策		性進主 位	‡	実施時期		
		民間	住民	短期	中期	長期
公園の整備(候補地Ⅰ:スーパーアツミ跡地)	0		0	0		
公園の整備(候補地Ⅱ:清田市民館隣接)	0		0	0		
公園の整備(候補地Ⅲ:折立公民館隣接)	0		0		0	
公園の整備(候補地Ⅳ:保美貝塚周辺)	0		0		0	
公園の整備(候補地Ⅴ:ショップレイ前)	0	0	0		0	0
自然とふれあうことのできる園地・広場づくり	0	0	0		0	0

安全・安心

1-3 防災機能の強化

生命に危険を及ぼす自然災害の発生が指摘される中で、住民の防災に対する関心が高まっています。まちの構造を地震や火災などの災害に強いものとするため、基盤となる 道路や防災機能を持った公園などの防災機能を強化する必要があります。

さらに、阪神・淡路大震災では木造住宅の下敷きになって死亡した人が8割以上も占めました。こうした不幸を避けるため、住宅の耐震化を推進していくことも重要です。

また、福江地区は海に面しているため、防潮対策も重要です。現在、防潮壁の入り口が角落としになっている箇所が多数ありますが、緊急時に地元住民で対応するのは大変であり、出入り箇所の整理・縮小や角落としの改善が必要です。

【基本的考え方】

- ①公園整備において、必要に応じて防災機能を付帯します。(前掲)
- ②建物の耐震化について、地域ぐるみで啓発に努めるとともに、住宅の耐震診断に取組み、さらに耐震に問題のある木造住宅の耐震改修を進めます。
- ③消火のためのホースの定期点検を行うとともに、状況に応じてホースの交換を行います。
- ④地区自主防災会の積極的な活動に取組み、被災者ゼロを果たす組織の強化を行います。
- ⑤地区内における危険なブロック塀の改修・撤去を行うとともに、転倒や脱落の恐れが ある自動販売機や工作物の固定・撤去に努め、生命に危険を及ぼす要因を改善します。
- ⑥地区の合意を得た上で角落としの廃止、または鉄製ゲート(自動式)に変更します。

【推進する施策】

施策		推進主体	*	実施時期		
		民間	住民	短期	中期	長期
公園整備に伴う防災機能の付帯化(前掲)	0		0	0	0	0
建物の耐震改修の促進	0	0	0	0		
消火のためのホースの点検・交換	*		0	0		
自主防災組織の強化	0		0	0		
危険工作物等の改善	0	0	0	0		
角落としの廃止や鉄製ゲート(自動式)への変更	0		0	0		

*は財政的支援を意味する



防災訓練



/ 水路の両側に設けた溝に角材をは め落として水をせき止める施設

1-4 安全で明るいみちづくり

地区内には歩道のある道路が少なく、児童の通学時の交通安全の面で問題を抱えています。通学路となっている道路で交通量の多いところについては歩道の整備が必要です。また、夜間の安全を考えた時、街灯を適切に配置し、明るいまちとすることが重要です。作物にとっては明るすぎると成長に影響がでることや、住宅にその光が差し込むと明るすぎて眠れないといった苦情など、設置には周辺住民の合意が必要ですが、不要なところに光が差し込まないよう工夫するなどの対応により、夜間のまちを明るくし、安心して歩くことができるようにしていく必要があります。

【基本的考え方】

- ①歩行者の安全を考え、新たに歩道を整備するとともに、老朽化した既存の歩道についてもバリアフリーで歩きやすい歩道に改善します。
- ②明るいまちとするため、国道 259 号など幹線道路沿道に街灯を設置するとともに、その背後地についても夜間の暗がりをチェックし、必要な箇所に周辺住民の合意のもと、スポット的な対応も含め街灯を設置します。
- ③汚れている街灯をきれいにすることで明るさを取り 戻します。



【推進する施策】

施策		推進主体			実施時期		
		民間	住民	短期	中期	長期	
旧国道 259 号等における歩道整備	0				0	0	
国道 259 号沿道における街灯の設置	*	0		0			
暗がり診断とその結果に基づく街灯の設置	*		0	0	0		
既存の街灯の点検・清掃		0	0	0			

*は財政的支援を意味する



国道 259 号沿道の街灯



国道 259 号沿道の街灯

快適

1-5 水辺を活かした憩いの場づくり

海がすぐ近くにあり、その海に流れ込む免々田川が流れる福江のまちにおいて、これら水辺空間を活かし、憩いの場所としていくことはまちに愛着を持ち住み続けたいと考える上で重要なポイントになります。また、環境問題に対する関心が高まっている中で、身近な自然にふれることができる場としても重要な空間となります。

【基本的考え方】

- ①免々田川のヘドロを浚渫し、水質を浄化し、ホタルを見ることができるようなきれい な川とするとともに、所々で川に下りられる親水空間*をつくります。河津桜の植樹を上流まで延伸します。
- ②まちなかの川(江川)を活かし、親水空間*として水にふれられる空間を整備します。

*親水空間:水にふれたり、見て楽しむ、音を楽しむ、においを感じるなど水に親しむことのできる憩いの空間

【推進する施策】

施策	‡	性進主 位	<u> </u>	実施時期		
心中		民間	住民	短期	中期	長期
免々田川の浚渫・浄化	0		0	0	0	0
免々田川の親水空間の整備	0			0	0	
免々田川沿いの河津桜の植樹の延伸	*	0	0	0		
江川を活かした親水空間の整備	0			0	0	

^{*}は行政的支援等を意味する



免々田川

江川

1-6 歴史を感じさせる空間づくり

福江のまちは古くから渥美半島西部の中心としてにぎわったところで、当時の面影を 残す建物も残されています。まちの歴史は現在のまちにつながるものであり、人々の記 憶とともに語りつがれています。このようなまちの歴史をそのまちの個性として活かし ていくこともまちに愛着を持ち、住み続けたいと考える上でも重要です。個人の建物を 残すことには様々な障害もありますが、まちの財産として考えていく必要があります。

【基本的考え方】

- ①城坂や陣屋跡地周辺を歴史ゾーンと位置づけます。
 - ・城坂を石畳とし、歴史を感じる雰囲気づくりを行います。
 - ・スーパーアツミ跡地の公園は陣屋の歴史や伝統ある祭りを感じることのできるものとします。(前掲)
 - ・ノスタルジー(郷愁)を感じる古い建物を活かした町並み景観を形成します。
 - ・当地区の歴史を伝える案内板を設置します。
- ②建物の色の統一感を持たせるなど地区ごとの特色をふまえた空間づくりを行います。

施策		性進主 位	<u> </u>	実施時期		
		民間	住民	短期	中期	長期
城坂の石畳化	0		0	0		
スーパーアツミ跡地の公園の整備(前掲)	0		0	0		
古い建物を活かした町並み景観の形成	0	0	0	0	0	
地区ごとの特色を踏まえた空間づくり	0	0	0	0	0	



城坂



歴史を感じさせる町並み

1-7 住民の散策や健康づくりに利用できる散策路

自分のまちを歩いてみると意外な発見があったりして、まちを見直す機会となり、まちに対する愛着が高まります。最近は、健康づくりの観点からウォーキングに対する関心も高まっており、地域住民が気軽に散策したり、健康づくりに活用できるような遊歩道を整備することが重要です。

また、福江のまちの魅力である水辺や歴史を結ぶ散策路を整備することで、人々をまちに誘い、歩いてもらうことにより、まちの魅力に気づいてもらうようにすることも重要です。

【基本的考え方】

①それぞれ特徴のある散策路として以下の5つを設定します。(p28まちづくりビジョン図参照)

コース	考え方
1)海辺の散歩道(仮	福江港(古田)〜海浜広場までの往復コースを雄大な海を眺めるこ
称)	とのできる散策路として位置づけます。散策路に街灯を設置すると
	ともに、福江港(古田)、海浜広場にはトイレを設置します。
2) 文化・歴史の散歩	新福江市民館〜城坂〜潮音寺〜免々田川堤防〜畠神社を結び一周す
道(仮称)	るコースを福江の歴史や文化にふれることのできる散策路として位
	置づけます。にぎわい拠点を訪れた来訪者をまちなかに誘導してい
	く役割も有します。免々田川堤防にはベンチを随所に設置します。
3) 免々田川散歩道	ショップ・レイ〜免々田川〜福江高校〜畠神社を結び一周するコー
(仮称)	スを自然に親しむことのできる散策路として位置づけます。
4) 中道散歩道	新福江市民館~高木公民館まで国道 259 号を往復するコースを夜
(仮称)	間も明るく安心してウォーキングを楽しむことのできる散策路とし
	て位置づけます。
ほ びいにしえびと 5) 宝海 古 人 散歩	あつみライフランド〜保美農村公園(烏丸資任の墓所)〜杜国屋敷
道(仮称)	址〜稲荷山古墳〜毘沙門天を結び一周するコースを旧跡をめぐる癒
	しの散策路として位置づけます。

*コース名や散策マップについては、子ども達からのアイデアを参考に今後検討していく。





福江港

January

子ども達のマップのアイデア

- ②散策路の整備にあたっては、歩きやすい散策路とするため、歩行者の安全性を確保 し、舗装の美装化や案内板の設置を行うとともに、夜間の散策が考えられる区間では足元を照らすフットライトを設置します。
- ③木陰の下で休憩できるポケットパーク*などを随所に整備します。
- ④散策路を PR し、利用を促進するため、散策路のマップを作成します。
- ⑤散策路を活用し、まちの魅力を発見してもらうとともに健康づくりにもつながるウォーキングイベントを開催します。

*ポケットパーク:道路わきや空き地などわずかな土地を利用した小さな公園または休憩所

施策	į	推進主体	<u></u>	実施時期		
心中		民間	住民	短期	中期	長期
海辺の散歩道(仮称)整備	0		0	0		
文化・歴史の散歩道(仮称)の整備	0		0	0		
免々田川散歩道(仮称)の整備	0		0	0		
中道散歩道(仮称)の整備	0		0	0		
宝海古人散歩道(仮称)	0		0	0		
ポケットパークの整備	0	0	0	0	0	
散策マップの作成			0	0		
ウォーキングイベントの開催	0	0	0	0		



免々田川散歩道



杜国屋敷址のポケットパーク



海辺の散歩道

まちづくりの目標 2

誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり

居住・定住

2-1 定住者の増加

地域の活力を維持していくためには、そこに住む「人」が重要です。住みよいまちという評価がありながら、働く場所がないことから若者が転出している状況にあります。しかし、当地域の主要な産業のひとつである農業や美しい海について関心をもつ若者がいたり、第二の人生として農業を選ぶ人も多く、これら農業や自然環境に関心を持つ人に住んでもらうことがまちにとっても有益です。そのため、居住地としての福江のまちのよさを伝え、住みたいと考える人に住んでもらうような取組みをしていく必要があります。

【基本的考え方】

- ①自然環境の素晴らしさや食の安全・安心が確保できるなど居住地としての魅力や特徴を打ち出し、ホームページ等を活用し、都会の人を対象に住みよいまちであることをPRします。
- ②農業に関心を持つ人々をひきつけ、定住に結びつけるため、農業体験のできる場をつくります。空き家等を活用し、農業体験期間中などに体験居住や短期滞在のできる住宅を提供します。
- ③当地区に住みたいと思う人のニーズに応えられる居住の場を提供します。
 - 例:遊休農地を活用した農地付き住宅・民間による 賃貸住宅や分譲住宅供給
- ④若者が働くことのできる場を提供します。
 - 例:農作物や海産物を加工する施設 土産物の製造工場
- ⑤市営住宅入居者の意向を踏まえた上で、建て替え にあわせてまちなかへ移転させるなど、住みたく なる市営住宅の供給をします。



施策	‡	性進主 位	Ż	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
居住地としての魅力の情報発信	0	0	0	0		
農業体験のできる場づくり	0	0	0	0	0	
居住の場の提供	0	0	0		0	
若者が働くことのできる場の提供		0			0	
市営住宅の建て替え・移転*等	0				0	

^{*}移転にあたっては入居者や地域の意向を踏まえて実施する。

2-2 高齢者の居住支援

福江のまちにおいても高齢世帯が増加しています。高齢者が愛着のあるまちに住み続けることができるようにするためには、地域の人たちの支えあいにより、高齢者の生活を支援していくことが重要です。都会で失われてしまった人とのふれあい、ぬくもりがあるのが、福江のまちのよさであり、そのよさを活かしていくことが高齢者が安心して住み続けることにつながります。

【基本的考え方】

- ①高齢者世帯(特に独居高齢者)に対するゴミ出し、安否確認など生活支援における地域住民による福祉のネットワークをつくります。
- ②空き家等を活用し、高齢者と子ども達がふれあうことのできる場をつくります。
- ③NPO等による高齢者の生活支援(配食サービス、外出支援など)を行います。

【推進する施策】

施策	į	推進主体	<u> </u>	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
地域住民による福祉のネットワークづくり	0	0	0	0		
高齢者と子ども達のふれあいの場づくり	0	0	0	0	0	
NPO等による高齢者の生活支援	0	0		0	0	

2-3 若者の居場所づくり

学校に行けない子どもやニートの増加など若者をとりまく環境は様々な問題を抱えています。若者が自分の居場所と感じることのできる場を提供するとともに、地域で子ども達を見守り、教育していくことで、若者がいきいきと暮らせる場づくりをしていくことが重要です。

【基本的考え方】

- ①若者同士が出会える場、集い活動ができる場など若者の交流の場や機会をつくります。 例:チャレンジショップ*、フリーマーケット、カルチャースクールなど
- ②ニート、フリーター対策として若者の職業訓練や農業体験の場を設けます。
- ③不登校児童・生徒の居場所をつくります。

*チャレンジショップ:最初から資金をかけて店舗展開をするよりもその前段階として、実験的に店舗経営をやってみるというもの

施策	į	性進主 体	7	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
若者の交流の場づくり		0	0	0	0	
若者の職業訓練や農業体験	0	0		0	0	
不登校児童・生徒の居場所づくり		0	0	0	0	

交流・コミュニティ

2-4 住民の交流を深める場づくり

まちが活性化するためには、そこに住む人々が生き生きとしていることが重要です。 まちの至るところで住民同士が気軽に会話し、その中から様々な活動が生まれ、まちに 笑顔があふれることでまちが元気になっていきます。現在でもいろいろな団体が多様な 取組みを行っていますが、それぞれの団体内の活動にとどまっています。住民同士の交 流を深め、多様なネットワークを形成していくことによってまちに活力が生まれます。

【基本的考え方】

- ①地域で活動する様々な組織のネットワークづくりをすすめ、連携を図ることにより、 より効果の高い活動を展開していきます。
- ②市民館を拠点として活用し、住民のふれあえる行事を多く企画します。さらに、新たな交流を生みだすきっかけとしてイベントを開催します。住民の手でイベントをつくりあげることで交流を深めます。また、イベントを通じて新たな人材を発掘します。

例:福江校区と清田校区間で連携したイベント

渥美半島全体の人たちが集まるようなイベント 健康づくりにつながるイベント

(ウォーキング、ラジオ体操、校区対抗運動会など)

まちのよさを再発見するようなイベント (まち歩き、お宝展示など)

室内イベント(将棋大会など)

③空き家活用などにより、住民同士が気軽に集うことのできる場をつくります。



施策	1	推進主体	‡	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
地域におけるネットワークづくり		0	0	0		
市民館の活用			0	0		
新たな交流を生みだすきっかけとしてのイベント開催		0	0	0	0	
住民同士が気軽に集うことのできる場づくり			0	0	0	





あつみ夏まつり

2-5 美化、清掃活動の展開

まちがきれいであると気持ちがよく、豊かな気分になります。道路も雑草に覆われていると狭く感じてしまいますが、きれいになっていると広くなったようにも感じます。また、美化や清掃活動は手間がかかりますが、その活動を通じて地域の人たちがふれあい、交流する絶好の機会であるといえます。このような活動を通じて、地域の人たちの良好な関係をつくりあげていくことが重要です。

【基本的考え方】

- ①月1回清掃デーを設け、自分達の家の周りからきれいにします。
- ②国道沿いの草取りなど、清掃活動を定期的にボランティアを募集して実施します。
- ③国道沿いの花壇について、地元管理の花壇を増やし、きれいに管理します。



施策		推進主体	本	実施時期			
	行政	民間	住民	短期	中期	長期	
清掃デーの設定		0	0	0			
国道沿いの草取りの実施			0	0			
国道沿いの地元管理花壇の増設・維持管理	0		0	0	0		



花壇の手入れ



道路清掃

人材

2-6 地域の人材活用

福江のまちには達人と呼ばれるようなあることに秀でた人たちがいます。これらの人に登録してもらうことで、その存在を多くの人に知ってもらい、その技を他の人に伝えていくことが、地域の人材を活かし、良好な地域づくりにつながります。

【基本的考え方】

- ①野菜づくり、釣り、おどりなど様々な分野の達人に登録してもらう達人登録制度を設け、様々な地域活動においてその能力を活かしていきます。
- ②年に1回達人技発表会を開催し、その技をみんなに知らせていくとともに、技の継承をねらいとした講習会などを定期的に開催します。



【推進する施策】

施策	‡	性進主 体	7	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
達人登録制度			0	0	0	
達人による講習会の開催			0	0	0	

2-7 ボランティアネットワークの形成

ボランティアに対する関心が高まっています。人のために何かをしたい、まちのために何かをしたいという思いを持っている人が多数います。また、定年後にボランティア活動に興味を持つ人も多いため、このような思いを活かすことができる場づくりが重要です。

【基本的考え方】

- ①まちの魅力を案内する観光ガイドボランティアを育成します。
- ②地域の安全を見守る活動(交通安全の立ち番を地域のみんなで行うなど)を展開します。
- ③地域通貨*を活用したボランティア活動を展開します。

*地域通貨:一定の地域で、実際のお金を使わずに、物やサービスを交換する方法。利子がつかず、消費することに意義を持つ。資源循環型のまちづくり手法の一つとして注目されている。

施策	‡	性進主 体	*	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
観光ガイドボランティアの育成	0	0	0	0	0	
地域の安全を見守る活動の展開		0	0	0	0	
地域通貨を活用したボランティア活動の展開		0	0	0	0	

まちづくりの目標 3

『水辺』を軸にした多様なにぎわいづくり

観光・商業

3-1 地域商業の活性化とにぎわい拠点づくり

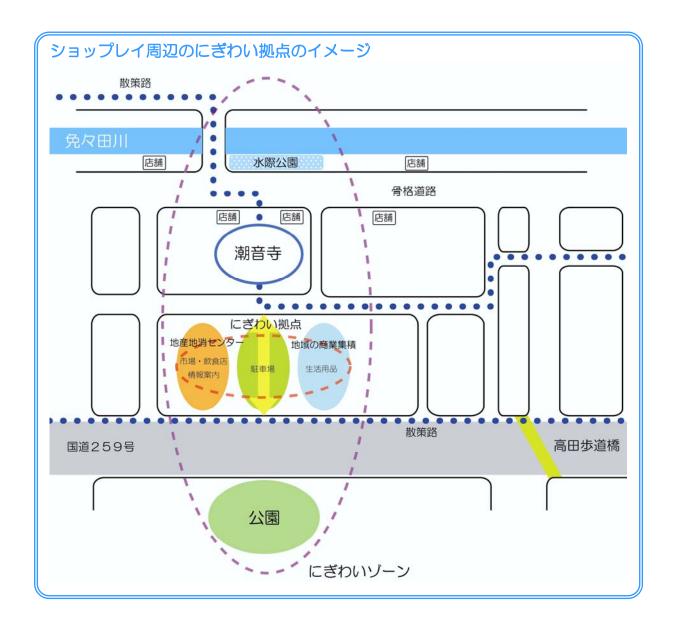
かつては大いににぎわった福江商店街も現在では商売をやめてしまった店も多く、商店街とは呼べない状況です。しかし、中には多くの集客のある元気な店もあり、地域に密着した店の存在は、これからの高齢社会を支える上でも重要となるため、地域の人々に利用される地域商業としてその重要性を増していく必要があります。

一方、伊良湖に多くの観光客が訪れていますが、福江地区を素通りしています。これらの観光客に立ち止まってもらうしかけとして、国道沿いに、人々が気軽に立ち寄ることができ、まちの中へ足を向けるきっかけの場となるにぎわいの拠点を設置することが重要です。これにより、国道からは直接見えない福江のまちを結ぶ場をつくることで、これまで素通りしていた人々が立ち止まり、背後の潮音寺をはじめとしたまちの魅力に気づいてもらうことが期待できます。

【基本的考え方】

- ①地域に密着した商業施設は、車の利用ができなくなった高齢者でも歩いていける範囲で買い物ができ、高齢世帯の生活を支える上で顔の見える関係づくりができるという点で重要な役割を持っています。また、そのまちに始終いる商業者はまちを見守る役目も有しており、安全で安心して暮らすことのできるまちづくりにつながります。
- ②地域商業を活性化させ、地域の人々に利用してもらうため、商店が点在しているのではなく、にぎわい拠点として一定の集積を図ります。ふれあい、顔なじみの安心感など大型店にない魅力を活かすとともに、ふれあいの場づくりなど足を運びやすくなるようなしかけをつくります。
- ③福江地区のにぎわい拠点としてカーマ周辺、ショップレイ周辺の2ヶ所を位置づけます。カーマ周辺については大規模店舗が集積し、現状を大きく変える必要はありませんが、ショップレイ周辺について施設が老朽化していることから、周辺を含め新たなにぎわい拠点として再生していきます。
- ④ショップレイ周辺については、地域の商業集積(地域に密着した商店の集積により住民の生活を支える)とともに集客の核(外来者を立ち止まらせ、まちに引きこむ)という2つの役割をもつにぎわい拠点づくりを行います。その実現に向けた実験的取組みとして、産地直送の朝市などを開催します。
- ⑤ショップレイ周辺のにぎわい拠点から人々をまちなかに誘うようなにぎわいゾーン を形成します。

施策	į	性進主 体	<u></u>	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
ショップレイ周辺のにぎわい拠点づくり	0	0			0	0
その実現にむけた実験的取組み	0	0		0		
にぎわいゾーン形成	0	0			0	0



集客の核としてのイメージ

- ①地産地消をテーマに福江のまちの自慢である食を売り出す
 - ・朝市(魚介類、野菜、菜の花など)の開催
- ②国道を通過した時に思わず立ち寄ってみたくなるような景観
 - ・駐車場や広場、建物デザインの工夫
- ③まちなかに人を誘導するためのしかけ
 - ・まちの魅力の情報発信、散策路との連携
- ④エリア全体をにぎわいゾーンに
 - ・免々田川沿いの活用(屋台などを設けることのできるスペースを確保=水際公園)

3-2 もてなしの空間としてのイメージづくり

福江のまちが観光客を受け入れ、大事にするまちであることを空間のイメージとして PRしていくことが重要です。地区へのアクセス道となる国道沿いの景観をよくすると ともに、まちへ誘うようなしかけを行い、さらにまちなかでは花を活かすなど魅力的な 景観づくりを行うことにより、まちに立ち寄ってみようと思わせることが重要です。

【基本的考え方】

- ①国道にかかる歩道橋の修景により、まちのシンボルブリッジとし、まちのイメージアップにつなげます。
- ②国道沿いの草刈りなどまちの環境美化を住民主導で行う(前掲)とともに、国道沿いや主要施設への道路沿いに街路樹を植え、外からの人をまちの中へ導く雰囲気をつくり出します。
- ③国道沿いの沿道景観としてふさわしくない広告についての規制を行います。
- ④個人宅での花壇づくりやガーデニングに地域ぐるみで取組むとともに個人の庭を期間を定めて公開するオープンガーデンを行います。

【推進する施策】

施策	1	推進主体	\$	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
国道にかかる高田歩道橋の修景*	0		0	0		
国道沿いの草取りの実施(前掲)		0	0	0		
国道や主要道路における街路樹の植栽	0			0	0	
国道沿いの広告の規制	0			0	0	
地域ぐるみでのガーデニングの展開		0	0	0	0	

*2008.2.27 完成。まちづくり会議実施事業第1号



国道にかかる歩道橋の修景(高田歩道橋)-まちづくり会議実施事業第1号-

3-3 食のまちとしてのPR

福江の食は観光の重要な要素です。特に、福江の魚貝類はおいしいと評判であり、また、社会的にも安全・安心な食に対する関心が高くなっており、福江の食のおいしさ、安全さをもっとアピールすることにより、食を入口にまちへ人を集めることが重要です。

【基本的考え方】

- ①渥美商工会や観光協会など様々な団体のホームページ等との連携・活用により、安全な食を PR し、食のまちとして情報発信を行います。ポスターやグルメマップで、なぜ福江の魚貝がおいしいのかを解説し、おいしい理由をアピールすることにより関心を高めていきます。
- ②観光会社と地域の事業者や農家などが連携し、福江のおいしい食を味わうことのできる食ツアーを行います。
- ③ソウルフード*や郷土食、オリジナルメニューなどを掲載したグルメマップを、飲食店などと連携して作成します。

例:あさり汁、あさり寿司

④山形の芋煮会に匹敵するような食のイベントを開催します。

例:地元の食材(大アサリなど)を使ったバーベキュー大会

*ソウルフード:一般にその地域や集団に属する人々のアイデンティティーに直結し、強い郷愁を喚起させる食材・あるいは食物を指す。

施策	1	推進主体	<u></u>	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
食のまちとしての情報発信	0	0	0	0		
観光会社との連携による食ツアーの実施		0		0		
グルメマップの作成		0	0	0	0	
食のイベントの開催		0	0	0	0	



グルメマップ



どんぶり街道手形

3-4 水辺の歴史を活かした観光・レジャーの空間づくり

福江のまちに立ち寄ってくれた人にまちのファンとしてリピーターになってもらうためには、食以外にも福江にはいろいろな魅力があることを伝えていくことが重要です。 街の中を流れる免々田川、三河湾を一望できる風景、きれいな夕日や他地区での花火も眺めることのできる海岸、古くから海上交通の拠点として発展した歴史は、まちの自慢です。福江のまちの魅力である水辺や歴史を活かした観光・レジャーの空間づくりを推進していく必要があります。

【基本的考え方】

- ①免々田川下流の川沿いにはボードウォーク*を整備し、水に親しみながら散策のできる空間とするとともに、プレジャーボートの係留所として活用し、釣りなどの集客につなげます。
- ②海岸(弁財ヶ浜)に潮干狩の時に利用できるトイレや休憩所を整備します。(前掲)
- ③城坂や陣屋跡地周辺を歴史ゾーンとして位置づけます。(前掲)
- ④水辺や歴史を結ぶ散策路を整備します。(前掲)

*ボードウォーク:板張りの遊歩道

施策	推進主体			実施時期		
心 宋	行政	民間	住民	短期	中期	長期
免々田川下流におけるボードウォークの整備	0				0	0
免々田川下流のプレジャーボート係留所としての活用	0	0			0	
弁財ヶ浜でのトイレや休憩所の整備(前掲)	0	0			0	
城坂や陣屋跡地周辺の整備(前掲)	0	0	0	0	0	
水辺や歴史を結ぶ散策路の整備(前掲)	0		0	0		



福江港



歴史を感じさせる町並み

イベント・情報発信

3-5 イベントによるにぎわいづくり

多くの人を集客し、まちの魅力を知ってもらう方法としてイベントがあります。福江 のまちの魅力を全面に打ち出すことで、福江のまちのファンをつくり、福江のまちの魅 力を他の人に伝えてくれたり、リピーターとして何度も来てくれるようになることが重 要です。また、多くの人にまちに来てもらうことは、住民自身が自分達のまちのよさを 見直す機会にもなります。

【基本的考え方】

- ①産地直送の朝市を開催します。
- ②新しくできる市民館前の木にイルミネーションを設置します。
- ③他地区からの集客を図ることのできるイベントを開催します。

例:福江まつりの充実・拡大

海岸から眺めることのできる花火イベント

花のまつり(菜の花・桜・藤・しょうぶ・彼岸花)・紅葉(うるし)

収穫祭・漁業祭

散策路を活用したウォーキング大会(前掲)

山形の芋煮会に匹敵するような食のイベント(前掲)

施策	‡	性進主 体	F	実施時期		
	行政	民間	住民	短期	中期	長期
朝市の開催		0	0	0	0	
イルミネーションの設置	0	0		0	0	
他地区からの集客を図ることのできるイベントの開催		0	0	0	0	



さくら祭り(3月)

潮音寺の藤(5月)

3-6 まちの魅力の情報発信

多くの人に福江のまちに来てもらうためには、まちの魅力を情報発信していくことが重要です。ホームページを有効に活用していくとともに、様々な機会をとらえ、多様な方法によって福江地区の多様な魅力を伝えていく必要があります。

【基本的考え方】

- ①まちの魅力を情報発信するホームページをつくります。
- ②みんなでおすすめの場所(バーベキューのできる場所、ウォーキングコース、季節の花の見所など)を 出しあいそれをマップとし、多くの人に紹介します。
- ③田原のまつりと連携し、福江のまつりをPRします。
- ④食のまちとしての情報発信を行います。(前掲)
- ⑤都会の人たちに対して福江のまちの住み良さの情報 発信を行います。(前掲)



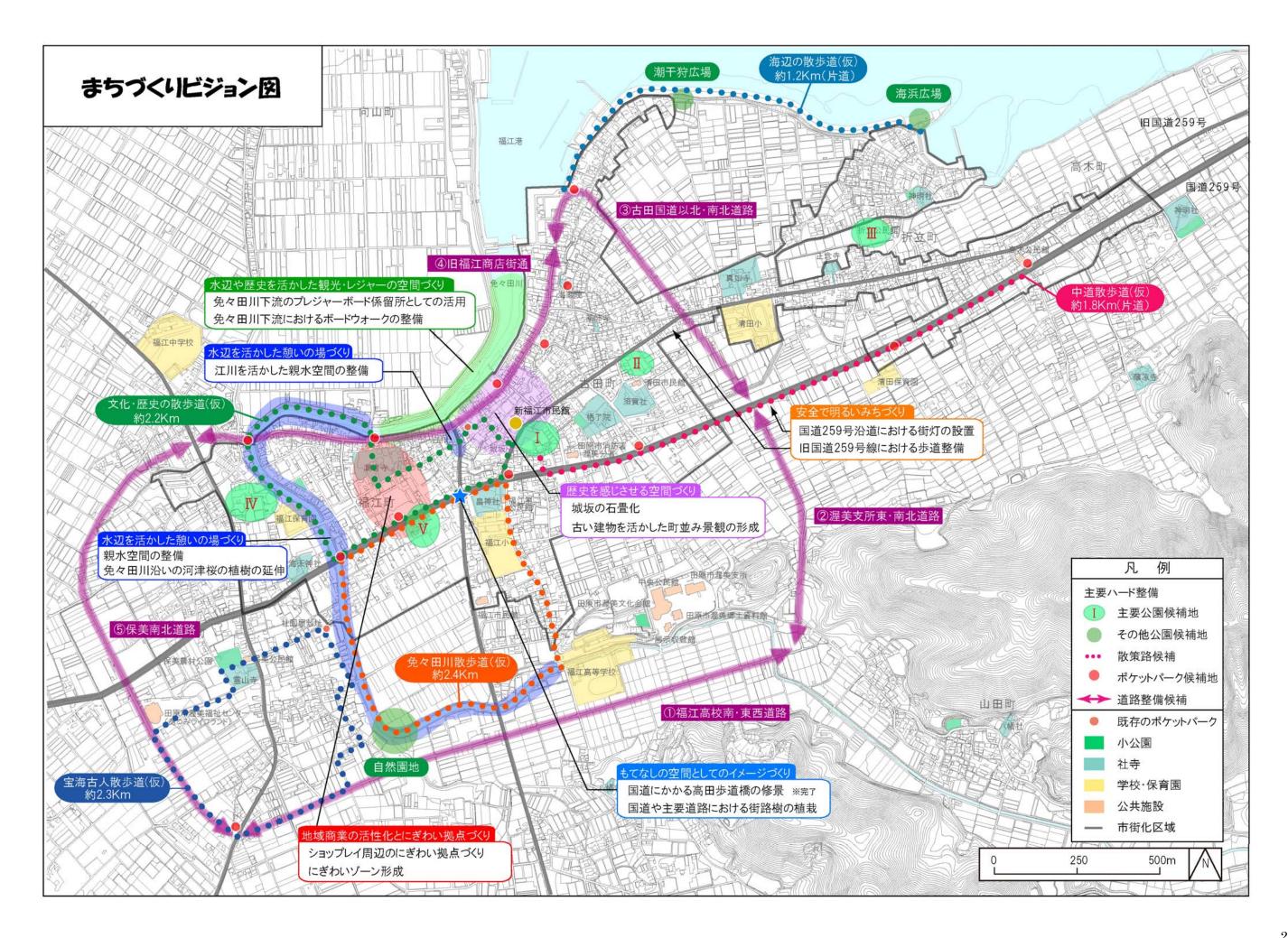
施策	推進主体			実施時期		
心块		民間	住民	短期	中期	長期
まちの魅力を情報発信するホームページの開設			0	0		
おすすめマップづくり		0	0	0		
福江のまつりの PR		0	0	0		
食のまちとしての情報発信(前掲)	0	0	0	0		
居住地としての魅力の情報発信(前掲)	0	0	0	0		



福江まつり



潮干狩り



まちづくりの展開にむけて

(1) 重点テーマ

取組みの方向としてあげた事項はまちづくりビジョンの実現にむけ、どれも必要な取組みですが、多岐に渡り網羅しています。そこで、まちづくりビジョンのめざすところをわかりやすく伝え、他地域の人々に福江のまちをアピールする取組みとして、以下の3つの視点から重点テーマをとりあげます。

①地域住民のまちに対する愛着を高め、まちづくりに取組むきっかけとなる取組み

住民の散策や健康づくりに利用できる散策路の整備

散策路とポケットパークの整備については、まちづくり会議において部会を立ち上げて検討を行ってきました。まちの特性をいかした特徴のある散策路を整備し、住民に利用してもらうことで、住民がまちに愛着を持つきっかけとなることが期待できます。事業としては比較的取組みやすいことからまちづくりビジョンの成果を目に見える形で住民に示しやすいという効果もあり、まちづくり会議での部会の取組みを継承させる形で取組むことが重要です。

このほか、「地区内に不足している公園の整備」や「安全で明るい道づくり」「まちの 魅力の情報発信」も住民がまちづくりに取組むきっかけとなる取組みとして重要です。

②福江のまちの自慢をアピールし、まちの活性化につなげていく取組み

地域商業の活性化とにぎわい拠点づくり

ショップレイ周辺のにぎわい拠点は、地域の商業集積とともに集客の核という2つの 役割を有するもので、福江のまちの自慢である食を売り出すことをイメージしていま す。実現にあたっては様々な課題を有しており、容易ではありませんが、実現すればそ のインパクトは大きいものと考えられます。これまで十分な取組みが行われてこなかっ た取組みであり、ビジョン作成をきっかけとして取組むことはビジョンをアピールして いく上でも重要です。様々な主体の連携により検討を進めるとともに、実験的取組みと して産地直送の朝市の開催などに取組むことが重要です。

このほか、「まちの骨格となる道路の整備」や「イベントによるにぎわいづくり」「食のまちとしての PR」もまちの活性化につなげていく取組みとして重要です。

③地域住民の交流・連携を深め、ひとの活性化につなげていく取組み

住民の交流を深める場づくり

まちを活性化させるためには、道路の基盤整備などのハード整備も重要ですが、それだけでは不十分であり、住民を中心とするソフトの取組みを展開していくことが重要です。その中でも住民の交流を深める場づくりの取組みは、多様なネットワーク形成につながり、様々な取組みの展開のきっかけとなるものと考えられます。地域で活動する様々な組織(例えば、免々田川で植栽や環境活動を行う団体など)のネットワークづくりからはじめ、新たな交流を生みだすきっかけとしてのイベントの開催や住民同士が気軽に集うことのできる場づくりなどに取組むことが重要です。

また、「美化、清掃活動の展開」は実践的な活動を通じて、住民の交流を深めることができる取組みとして重要です。このほか、「若者の居場所づくり」や「定住者の増加」もひとの活性化につなげていく取組みとして重要です。

(2) まちづくりの推進体制

福江地区まちづくり会議は、ビジョンの策定を目的として設置された会議であり、ビジョンの策定によりその役目を終えることとなります。

なお、ビジョン内で取組みの方向としてあげた事項は多岐にわたっているため、今後は 様々な主体が連携・協働を図りながらビジョンの実現に向けた体制を整え、取組みを推進 していくことが重要です。

このため、円滑な連携と調整を図る組織として「福江地区まちづくり推進協議会(仮称)」を立ち上げることを提案します。



福江地区まちづくり会議 構成員

委 員 (2007(H19)年度) 山本 由美子 下田 操子 宮川 邦洋 木村 勝彦 *石倉 一造 (高木自治会長) 宮川 太輔 上村 ひさ 杉江 久子 渡辺 建一 鈴木 茂 (折立自治会長) 川口 雄久 高橋 講治 宮本 貴子 ⊛渡辺 長一 宮川 誠志郎(古田自治会長) 森下 悦生 *鬼頭 滋可 永井 和子 ◎川崎 政夫 (福江自治会長) 本多 美恵子 森下 和美 齋藤 祥一 (保美自治会長) 〇清田 行雄 小久保 賢二 間瀬 祐一 山本 登志彦 委 員 (2008(H20)年度) 小久保 賢二 宮本 貴子 *石倉 一造 鈴木 茂 鈴木 幸太郎(高木自治会長) 齋藤 祥一 上村 ひさ 高橋 講治 森下 悦生 杉浦 孝児 (折立自治会長) 坂本 学 川口 雄久 永井 和子 山本 登志彦 朽名 勝彦 (古田自治会長) ◎川崎 政夫 山本 伸二 下田 操子 本多 美恵子 山本 由美子 (福江自治会長) 間瀬 祐一 渡辺 建一 黒田 正友 (保美自治会長) *鬼頭 滋可 杉浦 弘樹 木村 勝彦 宮川 邦洋 ⊛渡辺 長一 杉浦 通彦 〇清田 行雄 杉江 久子 宮川 誠志郎 吉田 洋平 顧問 杉浦 文平 木村 春雄 (清田校区総代) (市議会議員・折立町在住) (福江校区総代) 太田 由紀夫 (市議会議員・福江町在住) 上村 憲二 山本 浩史 (市議会議員・保美町在住) 市役所関係部署

福祉課 商工観光課 公園緑地課 **下水道課** 防災対策室 環境衛生課 土木課 建築課 渥美支所市民生活課 街づくり推進課

福江地区まちづくり会議の開催経緯

開催日	シントラ女哦	
	# 1 E	内 容 自己紹介、会則の決定、役員の選出
2007(H19)年 6月21日	第1回 (設立会議)	日己紹介、芸則の決定、役員の選出
8月22日	第2回	全体会議(まちづくりについての意見発表)、グループわけ
9月25日	第3回	グループ別会議(まちづくりのキーワードと具体的取組み)
10月18日	第4回	「参加のまちづくりとコンパクトシティ」講師:海道清信氏
44 🗆 0 🗆	(講演会)	福江地区のまちづくりについての意見交換
11月8日	第5回 (先進事例視察)	豊田市(桜町本通り商店街、西町商店街、チャレンジショップ、児ノロ公園)
11月21日	第6回	まち歩き、お宝マップの作成
	(子どもワークショップ)	「みんなで作ったまちの魅力マップ」(2008 年 3 月配布)
11月26日	第7回 (先進事例視察)	田原市(はなとき通り、福祉の里、ウォーキングトレイル、大手公園) 豊橋市(二川地区)
12月19日	第8回	全体会議(視察の感想、歩道橋の塗装)
	N L	グループ会議(福江のまちの自慢、まちづくりのコンセプト・ビジョンの実
		現にむけた取組み)
2008(H20)年	第9回	全体会議(歩道橋の塗装について)
1月16日		グループ会議(コンセプトシート、アイデア図の作成)
2月27日	第 10 回	中間とりまとめについて
		高田歩道橋の修景完成(まちづくり会議実施事業第1号)
5月8日	第 11 回	中間とりまとめの報告(公開)
	(中間報 告)	福江の歴史についての勉強会(公開)
		全体会議(今年度の進め方、市民館に合わせた拠点公園の整備)
6月18日	第 12 回	グループ会議(まちづくりのキャッチフレーズ、公園整備)
7月30日	第 13 回	グループ会議(まちづくりのキャッチフレーズ、公園整備、散策路とポケッ
		トパーク、地区の骨格となる道路)
		全体会議(散策路部会、ポケットパーク部会の立ち上げ)
9月18日	第 14 回	グループ会議(散策路とポケットパーク、地区の骨格となる道路、商店街の
		活性化とにぎわい拠点、イベントによるにぎわいづくり)
10月2日	第 15 回	常滑市(地域資源を活かしたまちづくり、やきもの散歩道、とこなめ中央商
	(先進事例視察)	店街、世間遺産)
10月30日	第 16 回	全体会議(視察の感想、安心・安全のまちづくり)
		グループ会議(定住者の増加、住民の交流を深める場づくり、安心・安全の
		まちづくり)
12月3日	第 17 回	グループ会議(ビジョン素案)
		全体会議(ビジョン素案のとりまとめ)
2009(H21)年	第 18 回	グループ会議(ビジョン案、重点的取組みとまちづくりの推進体制)
2月6日		全体会議(ビジョン案のとりまとめ)
3月19日	第 19 回	全体会議(ビジョンのとりまとめ)



まちづくり会議(第1回設立会議)



事例視察(豊田市桜町本通り)



事例視察(豊橋市二川地区)



事例視察(田原市はなとき通り)



事例視察(常滑市やきもの散歩道)



子どもワークショップ



まちづくり講演会

福江地区まちづくりビジョン 2009 (平成21) 年3月

発行:福江地区まちづくり会議

(事務局:愛知県田原市都市整備部街づくり推進課) TEL: 0531-22-1111(代表) FAX: 0531-23-0180 E-mail: machi@city.tahara.aichi.jp